

I 事業活動収支の部

1. 事業活動収入

①預託金預り収入

再資源化等預託金預り収入

(1) 預託方法別の預託台数

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異	
	決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)		(a)-(c)	(a)/(c)
新車購入時預託	371万台	570万台	65%	398万台	△27万台	93%
継続検査時等預託	333万台	350万台	95%	1,814万台	△1,481万台	18%
引取時預託(後付預託を除く)	50万台	99万台	51%	158万台	△108万台	32%
合計(A)	755万台	1,018万台	74%	2,370万台	△1,615万台	32%
引取時預託(後付預託のみ)(B)	18万台	20万台	88%	13万台	5万台	144%
預託台数合計(A)+(B)	773万台	1,039万台	74%	2,383万台	△1,610万台	32%

(2) 品目別の平均単価(エアバッグ類・エアコン未装備車を除いたもの)

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異 (a)-(c)
	決算(a)	年間予算(b)	差異(a)-(b)		
ASR	6,510円	6,400円	110円	6,230円	280円
エアバッグ類	2,460円	2,410円	50円	2,290円	170円
フロン類	2,070円	2,070円	0円	2,080円	△10円
合計	11,040円	10,880円	160円	10,600円	440円

(3) 品目別の装備率

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異 (a)-(c)
	決算(a)	年間予算(b)	差異(a)-(b)		
エアバッグ類	90%	90%	0	70%	20
フロン類	95%	97%	△2	89%	6

(4) 金額

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異	
	決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)		(a)-(c)	(a)/(c)
	81,008百万円	108,137百万円	75%	229,977百万円	△148,969百万円	35%

情報管理預託金預り収入

(1) 預託方法別の預託台数

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異	
	決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)		(a)-(c)	(a)/(c)
新車購入時預託	371万台	570万台	65%	398万台	△27万台	93%
継続検査時等預託	333万台	350万台	95%	1,814万台	△1,481万台	18%
引取時預託	50万台	99万台	51%	158万台	△108万台	32%
合計	755万台	1,018万台	74%	2,370万台	△1,615万台	32%

(2) 金額

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異	
	決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)		(a)-(c)	(a)/(c)
	1,736百万円	2,342百万円	74%	5,451百万円	△3,715百万円	32%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

①新車購入時預託

平成19年度第3四半期の新車購入時預託台数は前年度同期実績を下回った。

②継続検査時等預託

平成19年度においては、平成16年度第1四半期～第3四半期に新車販売された乗用車が預託の主な対象となっている。このため、平成19年度第3四半期の継続検査時等預託台数は前年度同期実績を下回った。

③引取時預託(後付預託を除く)

引取業者引取台数のうち新車購入時・継続検査時等で既に預託済みの台数の比率が高まっている(=引取時預託台数の比率が低下している)。このため、平成19年度第3四半期の引取時預託台数は前年度同期実績を下回った。以上を要因として平成19年度第3四半期の再資源化等預託金預り収入は前年度同期実績を下回った。

(※) ASR及びエアバッグ類の単価について

①平成19年度において、継続検査時等預託台数・引取時預託台数(後付預託を除く)の減少に伴い、単価が比較的高い新車購入時預託の比率が高まっている。

②平成19年度の継続検査時等預託において、単価が比較的高い平成16年度第1四半期～第3四半期に新車販売された乗用車が預託の主な対象となっている。以上を要因として平成19年度第3四半期の単価は前年度同期実績を上回った。

(※) エアバッグ類及びフロン類の装備率について

①平成19年度において、継続検査時等預託台数・引取時預託台数(後付預託を除く)の減少に伴い、装備率が比較的高い新車購入時預託の比率が高まっている。

②平成19年度の継続検査時等預託において、装備率が比較的高い平成16年度第1四半期～第3四半期に新車販売された乗用車が預託の主な対象となっている。以上を要因として平成19年度第3四半期の装備率は前年度同期実績を上回った。

【平成18年度第3四半期決算との比較】

同上。

②特定資産運用収入－再資源化預託金等特定資産運用収入

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
6,251百万円	8,507百万円	73%	4,101百万円	2,151百万円	152%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

保有債券残高の積み上がりにより平成19年度第3四半期の運用収入は前年度同期実績を上回った。

《保有債券残高実績》

平成19年度3Q末残高	平成18年度3Q末残高
7,514億円	6,260億円

2. 事業活動支出

①預託金払渡支出

再資源化等預託金払渡支出

(1)品目別の払渡台数

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異	
	決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)		(a)-(c)	(a)/(c)
ASR	278万台	360万台	77%	257万台	21万台	108%
エアバッグ類	73万台	90万台	82%	52万台	22万台	142%
フロン類	208万台	273万台	76%	191万台	17万台	109%

(2)品目別の平均単価

	平成19年度3Q			平成18年度3Q 決算(c)	決算対前年度差異 (a)-(c)
	決算(a)	年間予算(b)	差異(a)-(b)		
ASR	5,960円	6,020円	△60円	5,910円	50円
エアバッグ類	1,910円	1,960円	△50円	1,870円	40円
フロン類	2,090円	2,090円	0円	2,090円	0円

(3)金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
22,306百万円	29,155百万円	77%	20,130百万円	2,176百万円	111%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

引取業者引取台数が前年度を上回るペースで推移しているために平成19年度第3四半期の払渡台数が前年度同期実績を上回ったことから、平成19年度第3四半期の再資源化等預託金払渡支出は前年度同期実績を上回った。

《引取業者引取台数実績》

平成19年度3Q	平成18年度3Q
278万台	265万台

情報管理預託金払渡支出

(1)台数

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
289万台	360万台	80%	274万台	15万台	105%

(2)金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
472百万円	660百万円	72%	504百万円	△32百万円	94%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

平成19年度第3四半期の払渡台数は前年度同期実績を上回った。しかし、平成19年度第3四半期の払渡台数のうち、払渡単価230円の払渡台数は前年度同期実績を下回った。このため、平成19年度第3四半期の情報管理預託金払渡支出は前年度同期実績を下回った。

《情報管理預託金払渡支出の単価別の払渡台数》

1台当たり単価	平成19年度3Q		平成18年度3Q	
	払渡台数	払渡台数比率	払渡台数	払渡台数比率
130円	192万台	66%	125万台	46%
230円	97万台	34%	149万台	54%
合計	289万台	100%	274万台	100%

未払再資源化預託金等利息支払支出

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
216百万円	227百万円	95%	36百万円	180百万円	596%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

①平成19年度の未払再資源化預託金等利息支払支出に適用される利率が平成18年度よりも高い。

	平成16年度利率	平成17年度利率	平成18年度利率
適用利率	0.004%	0.380%	0.835%
	平成19年度払渡	0.004%	0.380%
	平成18年度払渡	0.004%	0.380%

(※)利息は預託年度に応じて複利計算される。

②平成19年度第3四半期の払渡台数が前年度同期実績を上回った。

以上を要因として平成19年度第3四半期の未払再資源化預託金等利息支払支出は前年度同期実績を上回った。

②預託金輸出返還支出

再資源化預託金等輸出返還支出

(1)台数

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
76万台	92万台	83%	22万台	54万台	346%

(2)金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
7,935百万円	8,937百万円	89%	2,137百万円	5,797百万円	371%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

平成19年度第3四半期の輸出返還台数が前年度同期実績を上回ったため、平成19年度第3四半期の再資源化預託金等輸出返還支出は前年度同期実績を上回った。

未払再資源化預託金等利息支払支出

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
78百万円	93百万円	84%	6百万円	72百万円	1284%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

①平成19年度の未払再資源化預託金等利息支払支出に適用される利率が平成18年度よりも高い。

	平成16年度利率	平成17年度利率	平成18年度利率
適用利率	0.004%	0.380%	0.835%
平成19年度輸出返還	0.004%	0.380%	—
平成18年度輸出返還	0.004%	0.380%	—

(※)利息は預託年度に応じて複利計算される。

②平成19年度第3四半期の輸出返還台数が前年度同期実績を上回った。

以上を要因として平成19年度第3四半期の未払再資源化預託金等利息支払支出は前年度同期実績を上回った。

③他会計への繰入金支出

承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計への繰入金支出

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
108.7百万円	108.7百万円	100%	761.6百万円	△652.9百万円	14%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

平成19年度第3四半期の特定再資源化預託金等の出えん額が前年度同期実績を下回ったため、平成19年度第3四半期の他会計への繰入金支出は前年度同期実績を下回った。

《出えん実績》

出えん先	出えん額(※)	
	平成19年度3Q	平成18年度3Q
指定再資源化機関	—	414.4百万円
情報管理センター	110.0百万円	350.0百万円
合計	110.0百万円	764.4百万円

(※)「承認・認可済特定再資源化預託金等特別会計への繰入金支出」と「未払再資源化預託金等利息支払支出」の合計額。

未払再資源化預託金等利息支払支出

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
1.3百万円	1.3百万円	100%	2.8百万円	△1.5百万円	46%

II 投資活動収支の部

1. 投資活動収入

①特定資産取崩収入—再資源化預託金等特定資産取崩収入

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
30,589百万円	39,333百万円	78%	24,039百万円	6,550百万円	127%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

平成19年度第3四半期の事業活動支出の合計額が前年度同期実績を上回ったことから、これらの支出の原資となる平成19年度第3四半期の特定資産取崩収入は前年度同期実績を上回った。

2. 投資活動支出

①特定資産取得支出—再資源化預託金等特定資産組入支出

金額

平成19年度3Q			平成18年度3Q	決算対前年度差異	
決算(a)	年間予算(b)	(a)/(b)	決算(c)	(a)-(c)	(a)/(c)
98,499百万円	130,259百万円	76%	259,655百万円	△161,156百万円	38%

【平成18年度第3四半期決算との比較】

継続検査時等預託台数の減少等により預託金預り収入の額が減少していることに伴い、資金管理法の口座への入金額も減少していることから、平成19年度第3四半期の特定資産取得支出は前年度同期実績を下回った。